

日本免疫毒性学会 2025年 総会

議事次第

I. 理事長挨拶（齋藤理事長）

II. 報告事項

[1] 総務報告（小島総務委員長）

- ① 会員数、入退会状況
- ② 役員数
- ③ 学会Webサイトバナー契約現状
- ④ 理事選挙、評議員推薦
- ⑤ 事務局業務外部委託、他

[2] 学術年会報告

- ① 第31回開催報告（黒田前年会長）
- ② 第32回開催報告（中西年会長）

[3] 委員会報告

- ① 学術・編集委員会（黒田委員長）
 - (1) ImmunoTox Letter 発刊
 - (2) 学会賞・奨励賞選考
 - (3) JSIT ImmunoTox Protocol
- ② 広報委員会（吉岡委員長）
- ③ 試験法委員会（坂入委員長）
 - (1) 試験法ワークショップ
 - (2) AOP小委員会
 - (3) JaCVAM関係

④ 連携学会委員会（西村委員長）

- (1) SOT-ITSSとの国際交流
- (2) 毒性学会での合同シンポジウム

⑤ 将来構想委員会（串間委員長）

- (1) 入会初年度の年会費無料制度と入会状況
- (2) 将来構想委員会主催の技術セミナーについて

[4] 事業報告（齋藤理事長）（業務年度：10月から翌年9月末）

III. 審議事項

[1] 人事（小島総務委員長）

- ① 新理事
- ② 新評議員
- ③ 次々期・第34回年会長

[2] 会計（小池理事）（会計年度：4月から翌年3月末）

- ① 2024年度決算案
- ② 2024年度監査報告
- ③ 2025年度修正予算（参考）
- ④ 2026年度予算案

[3] 財務シミュレーションと学会財政の健全化に向けて （小池理事、齋藤理事長）

[4] 「日本免疫毒性学会諸規定」役員等規定の一部改定について （齋藤理事長）

[5] 事業計画（齋藤理事長）

IV. 次期、次々期 年会長挨拶

報告事項

事務局報告 (1)

会員動向 & 会費納入状況

◆2024年度の会員数(2024/4～2025/3)

会員種別	4月	3月	増減
一般会員	168	179	11
学生会員	21	30	9
賛助会員	2	2	0
名誉会員	13	13	0
総数	204	224	20

◆2025年度の会員数(8月23日現在)

会員種別	4月	8月	増減
一般会員	193	207	14
学生会員	16	30	14
賛助会員	2	2	0
名誉会員	13	13	0
総数	224	252	28

◆2024年度入退会(2024/4～2025/3)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	14	3	7
学生会員	14	5	6
賛助会員	0	0	0
合計	28	8	20

退会者のうち一般2名、学生1名は会則(会員)
第5条(2)により退会(会費未納による退会)

◆2025年度入退会(8月23日現在)

会員種別	入会	退会	増減
一般会員	14	0	14
学生会員	14	0	14
賛助会員	0	0	0
合計	28	0	28

一般会員14名中13名が初年度会費無料の会員

◆2024年度末会費納入状況

	3月末
未納なし	165
未納あり	33
合計	198

* 会費納入は名誉会員と11名の初年度年会費無料会員を除く

◆2025年度末会費納入状況

	8月
未納なし	111
未納あり	113
合計	224

* 会費納入は名誉会員と13名の初年度年会費無料会員を除く

役員数

◆2024年の役員数

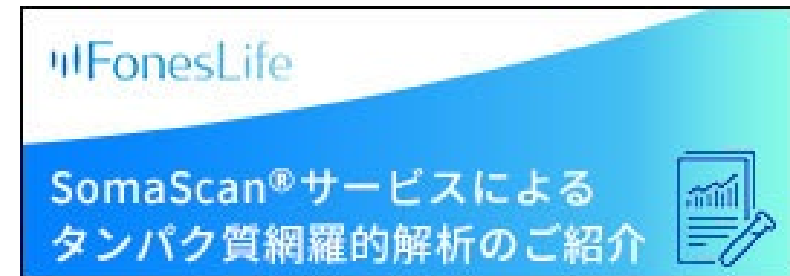
	4月	10月	3月
理 事	20	20	20
評議員	40	42	42
監 事	2	2	2

◆2025年の役員数

	4月	10月	3月
理 事	20	20	—
評議員	42	43?	—
監 事	2	2	—

バナー広告

現在掲載中 (1社)	フォーネスライフ株式会社	5/1更新
---------------	--------------	-------



理事選挙

- 評議員に対する新理事選挙につきましては、2025年6月1日～6月30日を投票期間として依頼しました。選挙結果のとりまとめを行い、理事会（2025年9月3日）において推薦候補として了承され、総会（2025年9月4日）において承認を得ます。

評議員推薦

- 評議員候補につきましては、2025年7月14日～8月8日の期間、評議員2名による推薦を受け付けました。理事会（2025年9月3日）において推薦候補として了承され、総会（2025年9月4日）において承認を得ます。

事務局業務の外部委託

- 昨年4月よりアクセライト社への業務委託が継続されています。

その他

- 会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- 外部からの問い合わせ対応

学術年会報告 2024年@西宮

第31回 日本免疫毒性学会 学術年会
The 31st Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology (JSIT2024)

免疫毒性研究から環境・医療を見つめる

期日 2024年9月19日(木)～20日(金)

会場 兵庫医科大学 平成記念会館
〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1-11
アクセス 阪神西宮駅から徒歩12分、武庫川駅下車 徒歩3分

年会長 黒田 悦史 (兵庫医科大学医学部免疫学講座)

プログラム

1日目 9月19日(木) 「環境と免疫毒性」
特別講演 善本隆之 先生(東京医科大学) 他
シンポジウム 環境とアレルギー最新知見

2日目 9月20日(金) 「医薬品開発 有効性と安全性」
特別講演 保富康宏 先生(医薬基盤健康栄養研究所)
シンポジウム 新しいワクチン・免疫療法の有効性と安全性

その他: 一般演題(口頭・ポスター)、若手・学生セッション、試験法ワークショップなど

非会員の入会初年度年会費無料制度がございます。初年度は参加費のみで発表できます！
詳しくは日本免疫毒性学会 HP (<https://www.japanimmunotox.org/>) まで

期日	2024.9.19-20
会場	兵庫医科大学 平成記念会館
年会長	黒田 悦史 兵庫医科大学医学部 免疫学講座・教授
テーマ	免疫毒性研究から環境・医療をみつめる
年会賞	口 頭 : 京都大学大学院地球環境学堂 佐川友哉 ポスター: 兵庫医科大学医学部免疫学講座 安田好文
学生・若手優秀発表賞	千葉大学大学院融合理工学府 寺越菜央
協賛	日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・日本毒性病理学会・日本薬学会
後援	日本アレルギー学会

学術年会報告 2025 年@岐阜



第 32 回
日本免疫毒性学会学術年会
The 32nd Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology (JSIT2025)

免疫毒性研究のイノベーション創出への貢献を目指して

2025年
会 期 **9.4 (木)・5 (金)**
会 場 **岐阜市文化センター**
〒500-8842 岐阜県岐阜市金町5丁目7番地2

年会長
中西 剛 (岐阜薬科大学)
主 催 **共 催**
日本免疫毒性学会 岐阜薬科大学

演題登録期間
2025年6月3日(火)~7月4日(金)

事前参加登録期間
早期: 2025年6月10日(火)~7月17日(木)
後期: 2025年7月18日(金)~8月25日(月)

非会員の入会初年度年会費無料制度がございます。初年度は参加費のみで発表できます！
詳しくは日本免疫毒性学会HP (<https://www.japanimmunotox.org/>) まで

事務局
[第32回日本免疫毒性学会学術年会事務局] 事務局長: 松丸 大輔 (岐阜薬科大学)
〒501-1196 岐阜市大学西1丁目25-4 岐阜薬科大学 衛生学研究室 内
Tel / Fax: 058-230-8100 (内線: 3645) E-mail: JSIT2025@gifu-pu.ac.jp
<https://www.japanimmunotox.org/jsit2025>



期日	2025.9.4-5
会場	岐阜市文化センター（小劇場、展示室）
年会長	中西 剛 岐阜薬科大学 衛生学研究室・教授
テーマ	免疫毒性研究のイノベーション創出への貢献を目指して
協賛	日本衛生学会・日本食品衛生学会・日本毒性学会・ 日本毒性病理学会・日本薬学会
後援	日本アレルギー学会
演題数	一般口頭 11演題、一般ポスター 22演題、 若手 16演題（口頭 14演題・ポスター 2演題）、計 49演題
講演	特別講演 2 演題、教育講演 1 演題、受賞講演 2 演題、 シンポジウム 4 演題、試験法WS 4 演題
事前登録参加	会員 73名、非会員 17名（招待講演5名を含む）、学生 19名、 協賛・後援学会員 13名、名誉会員 0名、計 122名

1. 学会賞・奨励賞選考結果

学会賞・奨励賞選考小委員会（委員長、野原恵子先生）で選考が行われ、理事会の承認を得て、第15回の受賞者は下記の通りに決定した。

学会賞 **柳澤裕之** 先生（東京慈恵会医科大学）

「重金属・化学物質・栄養素が誘発するアレルギー・炎症性免疫異常の免疫毒性メカニズムと統合的健康リスク評価」

奨励賞 **薄田健史** 先生（富山大学、現国立医薬品食品衛生研究所）

「HLA を介した薬物の免疫毒性を制御する環境因子の探索」

2. ImmunoTox Letter 発刊

（WEBに open access、MLにて会員への案内、WEBに掲載）

通巻58号（29巻2号） 2024年12月発刊

- 第32回日本免疫毒性学会学術年会（予告1）
- 第31回日本免疫毒性学会学術年会報告
- 第31回日本免疫毒性学会学術年会 年会賞、学生・若手優秀発表賞
- 第1回技術セミナー（オンサイト）開催報告 他

通巻59号（30巻1号） 2025年6月発刊

- 第32回日本免疫毒性学会学術年会（予告2）
- 第14回日本免疫学会学会賞、第14回日本免疫毒性学会奨励賞
- 第31回日本免疫毒性学会学術年会 年会賞
- Short talks on the shoulders of giants 他

3. JSIT ImmunoTox Protocol

学術編集委員のメンバーから3人にプロトコルを依頼し、作成、会員専用サイトにアップしました。

1) SNS発信 (Facebook、X (旧Twitter))

- ・学術年会について発信

2) 新しいHPへの移行

- ・問題無く運用中。
- ・役員名簿（所属変更）、英語版などを含めて適宜改訂
- ・「日本免疫毒性学会諸規定」、「運営委員の任期に関する内規」の改定案について、241228の運営委員会で議論された後、250219に理事会メール審議で承認された。それらをHPにアップした。
- ・「日本免疫毒性学会諸規定」の一部について総会での承認が必要なため、総会で承認後に、再度アップ予定。

3) バナー広告

- ・「立花先生が和研薬株式会社さまと交渉中」と241228の運営委員会で報告。その後、正式にご快諾いただき、小島先生に引き継いだ。

第32回免疫毒性学会学術年会での試験法ワークショップ「呼吸器感作性試験」を企画しました。発表演題は以下のとおりです。 試験法WS 9/5, 15:20-17:20

- 農薬等の一般化学物質により引き起こされる呼吸器感作性の特徴とその検出法の検討
麻布大学 福山 朋季 先生
- OECDにおけるレビュー論文の作成とJaCVAM呼吸器感作性試験編集委員会の活動
国立環境研究所 小池 英子 先生
- 化学物質のin vitro呼吸器感作性評価における再構成ヒト気管支上皮の活用
日本たばこ産業株式会社 石川 晋吉 先生
- 呼吸器感作性化学物質の正確な予測評価を可能にする3次共培養系の開発
東京医科大学 溝口 出 先生

1. 開発中のAOP

以下の3件について、ジャーナルへの投稿を目指して投稿原稿を準備中である。

1) AOP315：JAK3阻害によるTDAR抑制

吉田安宏，福山朋季，後藤玄 （コーチ：Shihori Tanabe）

進捗：Alternatives to Animal Experimentation (ALTEX) 誌への投稿を目指し，投稿原稿を準備中。

2) AOP313：Toll様受容体（TLR）7/8活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発

小松弘幸，秦信子，松村匠吾 （コーチ：Julija Filipovska）

進捗：Archives of Toxicology誌への投稿を目指し，投稿原稿を準備中。

3) AOP314：エストロゲン受容体活性化による全身性エリテマトーデスの増悪

大坪靖治，小西寿美恵，伊藤志保，田食 理沙子 （コーチ：Sabina Halappanvar）

進捗：Toxicology Letters誌への投稿を目指し，投稿原稿を準備中。

2. JaCVAM関連

特記事項なし。

3. Position Paper作成

間先生，久保先生，松村先生のご協力を得ながら投稿原稿を準備中。

1. SOT2025 ITSS Meetingでの意見交換

米国毒性学会 SOT2025 ITSS Meeting (3月Orland) に出席し、Dr. Victor J Johnson, Dr. Jamie DeWittらとJSITとの交流について意見交換を行った。

2. 第32回日本免疫毒性学会学術年会（2025 年）におけるITSS招聘講師の決定

第32回学術年会JSIT2025への招聘演者としてSOT-ITSS側のDr. Victor Johnsonらと調整を重ね、2023-2024 ITSS PresidentであるDr. Marie-Soleil Piche (Charles River Laboratories) に“Special Lecture: Immunotoxicology testing for biotherapeutics: strategies and application”の御講演を頂くこととなった。Dr. Picheの御講演は、実験的免疫応答の測定法やバリデーション・ベストプラクティスに関連し、重要な情報源となることが期待される。

3. 日本毒性学会との共同セッション

第52回日本毒性学会（JSOT）学術年会（2025年7月2日-4日、沖縄コンベンションセンター）における合同シンポジウム：**医学を拓く免疫毒性研究の新展開<職業曝露・腸内細菌・代替法・がん・老化>**を開催しました。

座長：西村 泰光（川崎医科大学 衛生学）、小池 英子（国立環境研究所 環境リスク・健康領域）

- 「アクリル酸系ポリマーが引き起こす肺の線維化」木戸 尊将（東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座）
- 「化学物質曝露による炎症病態と腸内細菌叢との関連」柳澤 利枝（国立環境研究所 環境リスク・健康領域）
- 「非ヒト霊長類の代替法に関する研究 -免疫毒性の視点から-」小川 久美子（国立医薬品食品衛生研究所 病理部）
- 「骨髄由来免疫抑制細胞を介した免疫毒性発現」立花 雅史（立命館大学 生命科学部 生命医科学科）
- 「老化と感作性疾患（免疫毒性）に関する研究」福山 朋季（麻布大学 獣医学部 薬理学研究室）

4. 第2回 JSIT Travel Award for SOTについて

SOT-ITSSとの連携強化および若手を中心とした研究活性化を目指してJSIT Travel Award for SOTの創設を提案しましたが、本事業については一旦停止することとし、財政健全化後の再開を待つこととしたい。

1. 入会初年度の年会費無料制度と入会状況について

- ・第32回（岐阜）：15名が初年度参加無料制度で登録（2025年8月22日時点）
⇒ 過去3年では39名の会員増加につながっている。

2. 将来構想委員会主催の技術セミナーについて

昨年の技術セミナー（肺胞マクロファージの *in vitro* 誘導法）に引き続き、今年も第2回 JSIT技術セミナーを開催した。昨年はオンサイト開催であったが、今年はより多くの方に参加いただけるようにオンライン開催とした。

JSIT ImmunoTox Protocolの中から、東北大学大学院歯学研究科の黒石智誠先生にご協力をいただき、「マウス唾液腺細胞の調製およびフローサイトメトリー（FCM）解析」についてセミナーを実施した。

目的：

- ◆ 若手研究者の交流の活性化、共同研究のきっかけ
- ◆ 基盤技術の維持、試験法の規制展開を見据えた技術共有 ⇒ 学術委員会のプロトコール集作成と連携
- ◆ 学術セミナーを介した新規会員の獲得

【開催概要】

内容：マウス唾液腺細胞の調製およびフローサイトメトリー（FCM）解析

- ◆ 免疫における唾液腺細胞について（講義形式）約30分
- ◆ 唾液腺の採取、細胞調製、FCM解析（動画で紹介）
- ◆ 質疑応答

日時：2025年8月22日（金） 13時30分～15時

場所：オンライン

参加費：無料（今回は無料開催でしたが、次回以降のセミナーは参加費をいただく可能性がございます）

参加登録者数：20名、参加者数：19名

- ◆ 現在、参加者の皆様に参加後のアンケートを実施中

日本免疫毒性学会2024年度事業報告

(2024年10月から2025年9月)

1. はじめに

第31回学術年会(2024年9月19日～20日、兵庫)は盛大に終了いたしました。今年度の第31回学術年会(2025年9月4日～5日、岐阜)は中西剛先生のご尽力で、久しぶりの東海地区での開催となりました。また昨年度に引き続き、会員限定の第2回 JSIT技術セミナーを2025年8月22日に開催しました。今回は、JSIT ImmunoTox Protocolの中から、東北大学大学院歯学研究科の黒石智誠先生にご協力をいただき、「マウス唾液腺細胞の調製およびフローサイトメトリー (FCM) 解析」についてオンラインで実施し、約20名の参加を得ました。またこれも昨年度から開始されたJSIT ImmunoTox Protocolに関しては、「疾患モデル動物」をテーマに学会員3名に執筆を依頼し、2025年7月に会員限定ホームページで公開しました。さらに新規モダリティを含め、医薬品に関する免疫毒性評価に関するPosition Paper の作成を、バイオ医薬品、核酸医薬品、遺伝子治療用製品を対象に行っています。このように、免疫毒性の専門家集団としての学会学術活動は活発化しております。さらに、JaCVAMから委託を受けた事業に関しては今年もAOP開発に多くの学会員が関わり貢献しました。

上記を含め、2024年度の活動につきまして、以下に概要をご報告いたします。

2. 事業内容(活動年度:2024年10月から2025年9月まで)

1) 運営委員会の開催

2024年12月28日と2025年7月30日にリモートで開催されました。

2) 理事会の開催

2025年9月3日に、岐阜で開催されました。

3) 総会の開催

2025年9月4日に、学術年会にあわせて対面で開催されました。

4) 第32回日本免疫毒性学会学術年会の開催

第32回日本免疫毒性学会学術年会は、2025年9月4日(木)～5日(金)に岐阜市で開催されました。年会長は中西剛 理事(岐阜薬科大学・衛生学研究室)で、テーマは「免疫毒性研究のイノベーション創出への貢献を目指して」でした。URL: <https://www.japanimmunotox.org/jsit2025/index.html>

5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号(日本語版、英語版)を刊行しました。
29巻第2号(通巻58号、2024年12月号)
30巻第1号(通巻59号、2025年6月号)

6) 第15回(2025年度)学会賞及び奨励賞の授与

学会賞は柳澤裕之先生(東京慈恵会医科大学)が「重金属・化学物質・栄養素が誘発するアレルギー・炎症性免疫異常の免疫毒性メカニズムと統合的健康リスク評価」の研究で受賞されました。
奨励賞は薄田健史先生(富山大学 学術研究部 薬学・和漢系 生体防御学領域 がん・免疫ユニット、現国立医薬品食品衛生研究所)が「HLA を介した薬物の免疫毒性を制御する環境因子の探索」の研究で受賞されました。それぞれ記念品が授与されました。

7) 第33回日本免疫毒性学会学術年会(2026年)の開催準備

第33回日本免疫毒性学会学術年会は、小池英子 理事を年会長として開催の準備が進められています。
期日: 2026年9月3日(木)～4日(金)
会場: つくば国際会議場(大会議室101・102)
年会長: 小池英子(国立環境研究所 環境リスク・健康領域)
事務局長: 鈴木武博(国立環境研究所 環境リスク・健康領域)
テーマ: 免疫毒性研究が拓く生涯健康への道

8) 第34回日本免疫毒性学会学術年会(2027年)

第34回日本免疫毒性学会学術年会の年会長については、理事会(2025年9月3日)において、吉岡靖雄 先生(大阪大学微生物病研究所 BIKEN次世代ワクチン協働研究所)が推挙されました。

9) 関連学会等との連携企画の開催

米国毒性学会 SOT2025 ITSS Meeting(3月Orland)に出席し、Dr. Victor JohnsonとJSITとの交流について意見交換を行った。JSOT2025(那覇, 2025年7月3日, 120分)で日本免疫毒性学会合同シンポジウム:医学を拓く免疫毒性研究の新展開<職業曝露・腸内細菌・代替法・がん・老化>を開催した。

3. 事務局及び諸委員会の活動

運営委員会(2024年12月28日及び2025年7月30日)では、会務運営や学術年会開催準備等について議論されました。各委員会等の活動は次の通りです。

1) 事務局(小島理事、窪田委員)

・理事・評議員候補の推薦

2024年度で理事の任期(3年間)が満了になることから、2025年6月1日から30日にかけて評議員による理事候補の推薦投票(10名)が行われました。これをもとに理事長から指名された20名(評議員からの得票上位20名)について運営委員会(2025年7月30日)さらに理事会(2025年9月3日)において了承されました。総会(2025年9月4日)において承認を得ます。

評議員候補につきましては、2025年7月16日から8月8日の期間、評議員2名による推薦を受け付けました。運営委員会メール会議(2025年8月18日)さらに理事会(2025年9月3日)において推薦候補として了承され、総会(2025年9月4日)において承認を得ます。

・会員の異動、会員(名誉・一般・学生・賛助会員・休会員)数の推移と会費納入状況の把握、自動退会(会費未納退会)の整理等の事務

・外部からの問い合わせ対応

2) 財務(委員長:小池理事)

・財務管理

・決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会(委員長:黒田理事)

学会賞、奨励賞推薦の取りまとめを行いました。またImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図りました。また、英語版の発行も継続しています。

4) 広報委員会(委員長:吉岡理事)

継続して学会ホームページの更新を行い、英文ホームページの充実に努めました。学会Facebookページ、Twitterアカウントjs_immunotoxからの発信も積極的に行いました。

5) 試験法委員会(委員長:坂入理事)

第32回免疫毒性学会学術年会での試験法ワークショップ「呼吸器感作性試験」を企画しました。発表演題は以下の通りです。

・「農薬等の一般化学物質により引き起こされる呼吸器感作性の特徴とその検出法の検討」

麻布大学 福山 朋季 先生

・「OECDにおけるレビュー論文の作成とJaCVAM呼吸器感作性試験編集委員会の活動」

国立環境研究所 小池 英子 先生

・「化学物質のin vitro呼吸器感作性評価における再構成ヒト気管支上皮の活用」

日本たばこ産業株式会社 石川 晋吉 先生

・「呼吸器感作性化学物質の正確な予測評価を可能にする3次共培養系の開発」

東京医科大学 溝口 出 先生

AOP小委員会(委員長:大石 巧 委員)

以下の3件について、ジャーナルへの投稿を目指して対応しました。

1) AOP315: JAK3阻害によるTDAR抑制

Alternatives to Animal Experimentation (ALTEX) 誌への投稿原稿を準備中。

2) AOP313: Toll様受容体(TLR) 7/8活性化による乾癬様皮膚疾患の誘発
Archives of Toxicology誌への投稿を目指し、投稿原稿を準備中。

3) AOP314: エストロゲン受容体活性化による全身性エリテマトーデスの増悪
Toxicology Letters誌への投稿原稿を準備中。

6) 連携学会委員会(委員長:西村理事)

第32回学術年会JSIT2025への招聘演者としてSOT-ITSS側のDr. Victor Johnsonらと調整を重ね、2023-2024 ITSS PresidentであるDr. Marie-Soleil Piche (Charles River Laboratories) に“Special Lecture: Immunotoxicology testing for biotherapeutics: strategies and application”の御講演を頂くこととなりました。第52回日本毒性学会学術年会(2025年7月2日-4日)で免疫毒性学会合同シンポジウムを企画・開催しました。

7) 将来構想委員会(委員長:串間理事)

「非会員の入会初年度年会費無料制度」は会員増加に寄与しています。第31回年会での非会員発表者13名のうち全員が一般会員になっていただきました。第32回年会でも15名の非会員発表者が登録されています。将来構想委員会主催の第2回技術セミナー(オンライン)を8月22日に開催し、参加登録者数20名中19名が参加しました。

審議事項

（1）理事

運営委員から以下の案が提案されました。

- ・ 会員数が概算で200名に対して、現在20名の理事であり、来季も同数とする。
- ・ 評議員を対象とした10月以降の評議員継続の諾否と、現評議員による理事投票を実施した。
- ・ 現評議員で継続辞退：野原恵子、森本泰夫、山浦克典
- ・ 新理事を辞退：串間清司
- ・ 上記の結果、新理事を以下の20名とする（下線は新任）。

間 哲生	青木 重樹	石井 明子	小川 久美子
木戸 尊將	久保 千代美	黒石 智誠	黒田 悦史
小池 英子	小島 弘幸	斎藤 嘉朗	坂入 鉄也
立花 雅史	中西 剛	中村 亮介	西村 泰光
福山 朋季	柳澤 利枝	吉岡 靖雄	吉田 安宏

2）評議員候補（五十音順）

① **青山 道彦** 先生（会員番号：756）

国立医薬品食品衛生研究所 生物薬品部

推薦者：石井 明子 評議員、齋藤 嘉朗 評議員

② **薄田 健史** 先生（会員番号：674）

国立医薬品食品衛生研究所 医薬品安全科学部

推薦者：齋藤 嘉朗 評議員、石井 明子 評議員

③ **鈴木 武博** 先生（会員番号：677）

国立環境研究所 環境リスク・健康領域

推薦者：野原 恵子 評議員、小池 英子 評議員

④ **浜村 えり** 先生（会員番号：692）

第一三共株式会社 安全性研究所

推薦者：中村 亮介 評議員、西村 泰光 評議員

3）第34回日本免疫毒性学会学術年会（2027年）年会長

吉岡 靖雄 理事

（大阪大学微生物病研究所 BIKEN次世代ワクチン協働研究所）

「日本免疫毒性学会諸規定」役員等規定の一部改定について

【役員等規定】を以下のとおり改定したい。

【現行】

1. 評議員の選任に当たっては、評議員 2 名からの推薦に基づき、理事会が推薦し、総会により承認を得る。
2. 理事の選任に当たっては、評議員の互選結果に基づき、理事長が評議員の中から指名し、理事会及び総会により承認を得る。なお、**理事に欠員が出た場合には**、理事長が新たに評議員の中から指名し、理事会及び総会の承認を得て、理事を追加することができる。
3. 選任時の理事及び評議員の年齢は、**65歳以内**とする。但し、理事会の承認を得た場合には、この限りではない。
4. 理事長の推薦により、理事の中から理事会の承認に基づき、副理事長を選任することができる。理事長が職務を遂行できない場合、副理事長はその職務を代行する。
5. 理事長の退任に当たっては、新理事長を理事の中から互選する。
6. 総務担当理事及び財務担当理事は、理事の中から互選する。
7. 年会長は、理事会の推薦に基づき、理事長が委嘱し、総会により承認を得る。
8. 監事は、理事以外の会員 2 名に理事長が委嘱する。
9. 通常、役員の任期は 3 年とし、再任を妨げない。
10. 理事会の議決は、理事の過半数をもって行う。



【改定案】

1. 評議員の選任に当たっては、評議員 2 名からの推薦に基づき、理事会が推薦し、総会により承認を得る。
2. 理事の選任に当たっては、評議員の互選結果に基づき、理事長が評議員の中から指名し、理事会及び総会により承認を得る。なお、**必要に応じて**、理事長が新たに評議員の中から指名し、理事会及び総会の承認を得て、理事を追加することができる。
3. 選任時の理事及び評議員の年齢は、**65歳以下**とする。但し、理事会の承認を得た場合には、この限りではない。
4. 理事長の推薦により、理事の中から理事会の承認に基づき、副理事長を選任することができる。理事長が職務を遂行できない場合、副理事長はその職務を代行する。
5. 理事長の退任に当たっては、新理事長を理事の中から互選する。
6. 総務担当理事及び財務担当理事は、理事の中から互選する。**総務担当理事、財務担当理事は、2期6年を超えて同一職に就くものではない。総務担当理事と財務担当理事は、副担当を若干名、会員から指名することができる。**
7. 年会長は、理事会の推薦に基づき、理事長が委嘱し、総会により承認を得る。
8. 監事は、理事以外の会員 2 名に理事長が委嘱する。
9. 通常、役員の任期は 3 年とし、再任を妨げない。
10. 理事会の議決は、理事の過半数をもって行う。

日本免疫毒性学会事業計画（案）（2024年10月から2025年9月）

1. はじめに

2025年度から理事会は新体制となりますが、2024年度と同様の活動を予定しております。年会は小池年会長の下、久しぶりにつくば市で催されます。また昨年度に引き続き、JSIT ImmunoTox Protocolの作成と会員限定ホームページでの公開、さらにPosition Paper の最終化と公開を行います。このPosition Paperは2023年6月に米国FDAが非臨床における免疫毒性評価に関するガイダンスを最終化したことで本学会としての考えを示すものですが、今後、ICH S8ガイドラインの改訂提案にもつながるものと期待されます。さらに本学会に期待される学術的専門性に対する責任を果たすべく、本学会が委託を受ける事業についても積極的に取り組みます。一方で、近年、年会費の支払いが滞る会員の割合が高くなっております。年会費は、学会活動を支える基盤であり、理事会としてもできるだけ多くの支出削減策を講じると共に、皆様が参加される年会ができるだけ充実するよう最大限の努力をしております。速やかな支払いをいただけますと幸いです。

今年度も学会活動への会員の皆様の積極的なご参加をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2. 事業内容（活動年度：2025年10月から2026年9月まで）

1) 運営委員会の開催

年2回（2025年12月と2026年7月）、リモートで開催の予定です。

2) 理事会の開催

2026年9月につくば市にて開催の予定です。

3) 総会の開催

2026年9月につくば市にて開催の予定です。

4) 第33回日本免疫毒性学会学術年会（2026年）の開催

小池英子理事を年会長に2026年9月につくば国際会議場（つくば市）で開催いたします。

テーマは「免疫毒性研究が拓く生涯健康への道」です。

5) ImmunoTox Letterの発行

下記の2号の刊行を予定しています。

30巻第2号（通巻60号、2025年12月号）

31巻第1号（通巻61号、2026年6月号）

6) 学会賞及び奨励賞の選考

第16回（2026年度）学会賞・奨励賞の選考を行います。

7) 第34回日本免疫毒性学会学術年会(2027年)の準備

年会長は、理事長が委嘱し総会で承認を得たのち企画を開始します。

8) 関連学会等との連携

関連学会等との連携により、免疫毒性をテーマとしたシンポジウム等を企画します。

第66回米国トキシコロジー学会学術年会（2027年）におけるSOT-ITSSとの合同シンポジウム開催を企画します。企画の締め切りが2026年5月となる見込みであり、SOT-ITSSおよび関連するSOTメンバーとの折衝を継続する予定です。

日本免疫毒性学会事業計画（案）（2024年10月から2025年9月）

3. 事務局及び諸委員会の活動

以下の活動を予定し、運営委員会（2025年12月及び2026年7月に開催予定）で検討されます。

1) 事務局

- ・会員の異動、会員（名誉・一般・学生・賛助会員・休会員）数の推移と会費納入状況の把握、自動退会（会費未納退会）の整理等の事務
- ・外部からの問い合わせ対応

2) 財務

- ・財務管理
- ・決算書及び予算書の作成

3) 学術・編集委員会

ImmunoTox Letterの編集・発行を年2回行い、学会ホームページに掲載するとともに、会員に対してメールマガジンにて周知を図ります。また、英語版の発行も継続して行います。

第16回（2026年度）学会賞及び奨励賞の選考のため、学会賞等選考小委員会委員長を指名し、受賞候補者の選考を依頼します。

4) 広報委員会

引き続き、学会ホームページのタイムリーな更新を行い、英文ホームページの充実に努めるとともに、Facebook及びTwitterからの発信を積極的に行います。バナー広告企業が減少していることから、積極的な勧誘を行います。

5) 試験法委員会

第33回学術年会（つくば、2026年）では、年会長と連携しながらワークショップを開催します。JaCVAMから日本免疫毒性学会が依頼を受けたAOP（Adverse Outcome Pathway）の開発に引き続き取り組み、論文投稿をいたします。

6) 連携学会委員会

SOT-ITSSの協力のもと、第33回学術年会（2026年）の特別講演の講師を選考します。第66回米国トキシコロジー学会年会（2027年3月）でのSOT-ITSSとの共同シンポジウムの企画をITSSとの連絡を密にして進めます。

7) 将来構想委員会

学会の持続的発展を可能とするため、特に若手会員の新規参入者を増やすための方策について検討を続けます。年会やシンポジウムの形態について模索します。

4. 予算

1) 2025年度修正予算（案）

（会計年度：2025年4月1日～2026年3月31日）

2) 2026年度予算（案）

（会計年度：2026年4月1日～2027年3月31日）

いずれも、別紙のとおりです。

**第33回日本免疫毒性学会
学術年会案内
小池英子次期年会長**

第33回 日本免疫毒性学会学術年会

The 33rd Annual Meeting of the Japanese Society of Immunotoxicology (JSIT2026)

免疫毒性研究が拓く生涯健康への道

会期

2026年9月3日(木)▶4日(金)

会場

つくば国際会議場 (大会議室101・102)

〒305-0032 茨城県つくば市竹園2丁目20-3 つくば駅より徒歩約10分

年会長

小池 英子 (国立環境研究所 環境リスク・健康領域)

<情報交換会>

2026年9月3日(木) 会議場内レストラン「リストランテTSUMU」

事務局

第33回日本免疫毒性学会学術年会事務局

〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2 (国立環境研究所 環境リスク・健康領域内)

鈴木 武博(事務局長)、柳澤 利枝、岡村 和幸、小池 英子

TEL: 029-850-2570 FAX: 029-850-2574 E-mail: jsit2026@nies.go.jp

～皆様のご参加をお待ちしております！～

